

高知県立希望が丘学園

希望が丘学園の支援体制

# 愛して 信じて 許して

～ステージ制導入で大きく変化した学園の支援と児童・職員の意識～

2016年3月

高知県立希望が丘学園

# 新たな児童自立支援施設の構築を目指して

監修者（花園大学社会福祉学部教授）

橋本 和明

児童自立支援施設と名称が変わる前の教護院時代はほとんどが小舎夫婦制で、夫婦である寮長と寮母が主たる児童の支援者であった。そこでは、阿吽の呼吸による協力と連携のもと、児童はそこに家庭を発見し、自分の居場所を見つけた。しかし、今やその小舎夫婦制を現存している児童自立支援施設は全国でも限られるようになってきて、職員が交代で勤務するシステムがもはや主流となっている。

交代制となって、以前にできていた切れ目のないかわりや一貫性の担保できる指導がしにくくなったことは事実である。その落とし穴を児童もついてきて、互いにぎこちなさやうまくいかなさを抱くことさえある。今までなら寮長と寮母の24時間体制のかかわりの中で、評価基準はそれほど揺らぐことはなかったものの、交代制を導入することとなり、担当者によって評価基準が大きく変動し、児童はその狭間で揺さぶられることもある。

さらに、近年、発達障害など発達に課題のある児童が多く入所してくることで、何をどうすれば評価が得られ、施設を退所するまでにはどのようなことが必要なのかを明確に示さないと指導に乗りにくい者も多くなってきている。

そのような現状の中で、希望が丘学園が構築した支援システムは「ステージ制導入」である。これは毎日、児童が職員とともに『振り返りチェック表』を用いて自分の行動を点数化し、一定の期間、基準を満たす点数が取れば次のステージに上がるというもので、このプロセスは施設を退所するまで続けられる。

これを導入するに至るまでには、施設全体が大揺れに揺れ、職員も指導の方法すら見出せなかった時期があった。「ステージ制」はそんな中で生まれ、これを導入することにより希望が丘学園は蘇った。おそらく先に述べたように、時世に合致した面があったのも大きな理由である。

実のところ、当初はこの「ステージ制」も試行錯誤であった。職員がみんなで検討を重ね、しだいに板につき、現在は職員も児童もこれを一つの基準にするまでに定着している。それゆえ、以前のように施設全体が秩序をなくし混乱することもなくなり、児童も安定した生活をここで送るようになってきている。

この冊子は、実践報告としてその成果をまとめ、希望が丘学園から外に向けて発信しようとの職員の気持ちで作成に動かした。これまでにない新たな児童自立支援施設の構築という意味では非常に貴重なものであり、高く評価したい。

ただ、この「ステージ制」がマンネリ化すると、職員は児童を単に点数化すれば仕事は足りると勘違いするかもしれない。あるいは、外から見ると、職員は児童とのかかわりをすべて点数に置き換えてしまい、そこには真の心の交流がないのではないかと誤解をされかねない。それは大きな間違いであり、「ステージ制」の本来の目的は違うところにある。言ってみれば、これはあくまでも児童と職員のかかわるツールの一つである。だからこそ、職員は日常の児童の様子をじっくり観察し深くかかわりながら、点数にならない部分をいかに拾い上げ、成長を促していくかが問われているのである。その意味で、この冊子はあくまでも中間報告であってほしいと筆者は願いたい。そして、「ステージ制」をさらなる次の段階に高める努力を惜しまないでほしい。

# 希望が丘学園の支援体制

## 1. ステージ制導入の経過

希望が丘学園では、平成25年度から「ステージ制」による支援システムを導入し、児童の自立に向けた支援を実施している。それまでの支援の流れは、おおむね1年間の支援期間があらかじめ設定されており、10か月という時期が来なければ、次への段階へは進めない仕組みであった。児童にとっては、自分の置かれている状況について目に見えず、途中でどんなに頑張っているとしても、段階を進む時期にタイミングよく生活が安定していなければ評価されなかったり、逆に誰が見ても安定していない児童を期間満了というだけで、担当職員や寮の判断で次への段階に進ませたりと、児童にとっては非常に分かりにくく、不公平感を感じるものであった。それは児童だけではなく、職員間（寮間）でも同じで、他寮への不満や文句があちこちで聞かれ、本来の施設が果たすべき役割を見失っていた。職員はやり甲斐を見い出せず、異動希望者が増え、自分の勤務時間だけは何とかこなす状態で、児童に寄り添い支援する環境ではまるでなかった。そのしわ寄せは児童へ行き、矯正許可ができる施設への措置変更になる者、長期に渡って学園での生活を余儀なくされる者が増えていった。

そのような状況の中、平成23年度に寮が崩壊し多くの児童が措置変更となった女子寮職員が「これ以上、子どもらを失うわけにはいかない！」と奮起して考案したのが、今の『振り返りチェック表』であった。その後何度も改良と試行を重ね、現在の「ステージ制」のシステムを作り上げた。平成24年度に女子寮で試行し大きな効果をもたらしたことから、翌年には男子寮でも導入し、学園全体での実施が始まった。

ちなみに「ステージ制」の導入にあたっては児童の次のような声がきっかけとなったことをここに記しておきたい。

- ・自分の支援の進み具合がわからない！
- ・自分は、あと何をすればいいのかがわからない！
- ・担当の職員によって支援の進度が違う！
- ・なぜあの人（帰省）が帰れて、私がだめなのか？
- ・頑張っているのに誰にも認めてもらえない！
- ・寮によって支援の方法が違う！
- ・いつになったら、帰省や試験登校ができるのか、先（未来）が見えない！

この声は、施設にいるすべての児童の不満であり、怒りであり、希望である。また、実際にこれらの声を発しなくても声なき声として抱えている子どもも多い。

ところで近年は発達に課題をもって入所してくる児童がどの施設にも多くなっているといわれている。希望が丘学園においては、平成25年度は4月の時点で、入園児童の約6割が発達障害を有することがわかった。それゆえ、今までと同じ支援をしても必ず行き詰まり、その支援では限界が来ることを前年度の男子寮崩壊で嫌というほど思い知らされ、職員の中にも大きな危機感と同時に、現在の入所児童に適した方法の導入が必要だという意識が高まったことも大きな後押しとなった。

## 2. ステージ制の特徴

### Timely

『振り返りチェック表』を用いて毎日の言動を確認することで、児童の課題を発見しやすく、その課題克服に向けた支援や話し合いの場を“タイムリー” (Timely) に持つことができる。

- 毎日繰り返される掃除や挨拶、朝ジョグには児童の状態が反映されやすい。その日の×の個数や数日の状況を見ることによって、職員も支援のタイミングを計りやすい。そして、表面的な抜かりや失敗を通して、児童のより深い部分の課題を扱うことができる。
- 入園してすぐの児童にとっては、『振り返りチェック表』が基本的な生活習慣を整えるきっかけとなる。ステージ制が出来る前であれば「朝の起床」「挨拶」「先生と呼ぶ」など、基本的なことであっても、「何故そのようなことをしなければならないのか」と不満を口にする児童がいた。しかし、やるべき事、あるべき姿を明確にし、日々確認することで、基本的なことでの口論がなくなった。学園全体として何を大切にするか、職員、児童が共に共通認識を持ち、基本的な生活の指導がその都度出来るようになった。

他寮の児童に対しても、服装、言葉遣い、活動の取り組みについてなど、評価（良い、悪い）が返しやすくなった。

### Small Step

『振り返りチェック表』を使うことで今の自分は何が出来ていて、何が出来ていないのか、そして次は何を頑張ったら良いのかが児童自身でも理解でき、支援者側も“スモールステップ” (Small step) での目標設定が可能となる。

- ステージ毎に意識、取り組み姿勢にレベルアップを求めている。児童にとっても自信や責任感を持てるように意図的に声かけをしている。同じ項目であっても、少しずつ解釈を深め、社会生活でも通用するレベルまで求めていくようにしている。例えば、敬語を使うにしても、意識して使うレベルから、日常的な雑談でも無意識に使えるように求めたり、挨拶であれば、声の大きさ、気持ちの良さを求めている。
- 児童Aが朝ジョグをしていた。最初は「走りきる」が目標であった。それが定着すれば、次は「一生懸命走り切る」ということで、目標タイムを寮で設定する(本児が頑張れば出せるタイムを設定)。本児の状態、時期をみて、目標タイムを上げていき、現状で満足させず、常にもう一つ上のレベルにチャレンジするようにしている。

### Speedy

各児童の支援の全てを担当職員が一人で担う「担当制」から、寮内の児童支援は寮職員全員で担う「チーム制」へ移行したことで、点の支援から線の支援へと変わった。それにより、児童の課題発見や対応が“スピーディー” (Speedy) になり、支援にかかる時間のロスが軽減された。

- 児童らに不安定な様子があれば、必要に応じてすぐに担当寮の全職員にメール連絡をしている。その場にいる職員だけでなく、多くの職員と情報共有をして支援方針を確認しながら対応している。
- 朝のラジオ体操で、手や脚の曲げ伸ばしが十分に出来ておらずチェックが×であった場合、その情報を職員で共有できていれば、次の場面で事前に注意喚起することが出来る。児童も余計なことに気を取られることなく、同じ失敗を繰り返すことが少なく課題の克服に取り組むことが出来る。

## Simple

ポイントやステージ別といった、目に見える形として“シンプル”（Simple）な支援の進捗を表わすことで、近年増加する発達に課題のある児童にも大変分かりやすく受け入れが円滑である。また、保護者や関係機関にも具体的な数値を持って説明ができるため説得力もあり、理解もされやすい。

- 入園当初の児童が日々の生活を意欲的に取り組むためには、分かり易い目標があるのが良い。安定した生活を送れば約3カ月で85OP(ステージ③昇格の権利を得ることができる)が溜まるが、それを目安にして帰宅訓練や課外活動に参加できるなど、自分の力を外で試す場が持てるようになる。頑張り次第でチャレンジの場が広がるという分かり易さがある。
- 入園時に保護者から多く質問されるのが「どのぐらいしたら、帰宅できるようになるのか」ということである。ステージ制導入前は、「それは、本人の頑張り次第です」という曖昧な説明しかできなかったが、ステージ制導入後は、ステージ③に上がる時期が根拠をもって説明できるようになり、保護者も見通しを持ちやすくなった。それにより、帰宅訓練などの受け入れ態勢を整える協力を得られやすくなった。

### 3. 支援方法

(1) 支援の進捗を表わすステージ①～⑤を設定。

ステージ①…生活習慣の立て直しをはかると共に、学園や分校のルールを確認しながら生活をする。

ステージ②…自分の課題を見つけ安定した生活を目指す。

ステージ③…安定した生活の確立と維持をはかると共に、帰宅訓練①を通して家族との関係を再構築していく。

ステージ④…試験登校や卒園に向けての準備をする。帰宅訓練②を通して地域の場での力試しを行う。

ステージ⑤…自信を持って試験登校へチャレンジする。

※中卒生はステージ⑤に昇格した時点で卒園とする。

日々の活動を基準項目に分類し、それを、児童と職員が夕礼時に『振り返りチェック表』を使ってチェックをしながらポイントを貯める。

●児童が毎日チェックする『振り返りチェック表』（全児童共通）

ステージ①		【記入方法と得点】 できた……○(1ポイント) できなかった……×(0ポイント)										○日～○日	
基準項目	内容	土	日	月	火	水	木	金	合計				
消灯	前日の消灯(21時)が守れ、トイレ以外は部屋を出なかった。												
自習時間 平日:夜 休日:昼・夜	30分間は自室で学習に取り組むことができた。 (宿題・連絡帳)												
朝の起床	7時までに起床ができた。 (布団を整頓するまで)												
日課	朝、夕の日課(掃除、洗濯干し、当番の仕事)朝10G、朝読書・昼読書・部活(平日)、体育部活動(休日)を一生懸命取り組めた。												
服装・髪型	違反があっても一度の注意で直すことができた。												
体操・太鼓	時間内は、最後まで中断することなく取り組むことができた。												
挨拶	挨拶ができた。 (言われたら返す)												
言葉遣い 態度	〇〇先生と呼ぶことができた。 相手や周りが不快になる言動や暴言が出た時でも一度の注意ですぐに直すことができた。												
注意・指示	先生の注意や指示が聞けて、直すことができた。												
今日の獲得ポイント(合計P)											今週の合計P		
先生からのコメント(確認)											総合計P		

ステージ②		【記入方法と得点】 できた……○(1ポイント) できなかった……×(0ポイント)										○日～○日	
基準項目	内容	土	日	月	火	水	木	金	合計				
消灯	前日の消灯(21時)が守れ、トイレ以外は部屋を出なかった。												
自習時間 平日:夜 休日:昼・夜	30分間は自室で学習に取り組むことができた。 (宿題・連絡帳)												
朝の起床	7時までに起床ができた。 (布団を整頓するまで)												
日課	朝、夕の日課(掃除、洗濯干し、当番の仕事)朝10G、朝読書・昼読書・部活(平日)、体育部活動(休日)を一生懸命取り組めた。												
服装・髪型	違反があっても一度の注意で直すことができた。												
体操・太鼓	時間内は、最後まで中断することなく取り組むことができた。												
挨拶	挨拶ができた。 (言われたら返す)												
言葉遣い 態度	〇〇先生と呼ぶことができた。 相手や周りが不快になる言動や暴言が出た時でも一度の注意ですぐに直すことができた。												
注意・指示	先生の注意や指示が聞けて、直すことができた。												
今日の獲得ポイント(合計P)											今週の合計P		
先生からのコメント(確認)											総合計P		

ステージ③		【記入方法と得点】 できた……○(1ポイント) できなかった……×(0ポイント)										○日～○日	
基準項目	達成 回数	内容	土	日	月	火	水	木	金	達成 合計	達成率		
消灯	100% 7回	前日の消灯(21時)が守れ、トイレ以外は部屋を出なかった。											
自習時間 平日:夜 休日:昼・夜	100% 7回	30分間は自室で学習に取り組むことができた。 (宿題・連絡帳)											
朝の起床	100% 7回	7時までに起床ができた。 (布団を整頓するまで)											
日課	100% 7回	朝、夕の日課(掃除、洗濯干し、当番の仕事)朝10G、朝読書・昼読書・部活(平日)、体育部活動(休日)を一生懸命取り組めた。											
服装・髪型	100% 5回	違反があっても一度の注意で直すことができた。											
体操・太鼓	80% 4回	腕や膝の曲げ伸ばしもしっかりとでき、全力で取り組めた。											
挨拶	80% 以上	挨拶ができた。 (言われたら返す)											
言葉遣い 態度	100% 7回	〇〇先生と呼ぶことができた。											
	80% 以上	相手や周りが不快になる言動や暴言が出た時でも一度の注意ですぐに直すことができた。											
注意・指示	80% 以上	先生の注意や指示が聞けて、直すことができた。											
今日の獲得ポイント(合計P)											今週の合計P		
先生からのコメント(確認)											総合計P		

ステージ④		【記入方法と得点】 できた……○(1ポイント) できなかった……×(0ポイント)										○日～○日	
基準項目	達成 回数	内容	土	日	月	火	水	木	金	達成 合計	達成率		
消灯	100% 7回	前日の消灯(21時)が守れ、トイレ以外は部屋を出なかった。											
自習時間 平日:夜 休日:昼・夜	100% 7回	1時間は自室で学習に取り組むことができた。 (宿題・連絡帳・自主)											
朝の起床	100% 7回	7時までに起床ができた。 (布団を整頓するまで)											
日課	100% 7回	朝、夕の日課(掃除、洗濯干し、当番の仕事)朝10G、朝読書・昼読書・部活(平日)、体育部活動(休日)を一生懸命取り組めた。											
服装・髪型	100% 5回	違反がない。 (注意を受けない)											
体操・太鼓	100% 5回	腕や膝の曲げ伸ばしもしっかりとでき、全力で取り組めた。											
挨拶	80% 以上	自分から大きな声で挨拶ができた。											
言葉遣い 態度	100% 7回	〇〇先生と呼ぶことができた。											
	100% 7回	相手や周りが不快になる言動や暴言が出なかった。 (です、ます等の敬語を使って先生に話せた)											
注意・指示	100% 7回	先生の注意や指示が聞けた。 (直すことができ同じ注意を繰り返さない)											
今日の獲得ポイント(合計P)											今週の合計P		
先生からのコメント(確認)											総合計P		

現在の『振り返りチェック表』には10個の達成内容がある。ステージが上がるに従って要求内容は少しずつ変わってはいくが、基準項目は変わらない。達成内容を10個にした理由は、ポイントの計算が簡単にできることと、自己評価をするにあたって10個以上の内容があったとしても、しっかりと振り返ることができないと考えたからである。

生活全般をチェックしていく全児童共通の『振り返りチェック表』だけでは、個々の課題を具体的に掘り下げ、意識づけさせることが難しい。そのため、それを補うものとして『個人ファイル』を活用し、日々の生活をチェックしている。

●A君の『個人ファイル』（各児童の課題にそった項目を設定）

今日の振り返りチェック表	名前						
★ 正直に！×が多くてもOK！！	日	日	日	日	日	日	日
★ ○が「増えていくこと」が「成長」です！！							
	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
●目指せ1位！朝ジョグ ・2分45秒まで→◎ ・3分まで→○ ・3分以上→×							
●学力アップ！1時間自習 ・1時間できました→○ ・途中でやめました→×							
●整理・整頓ができた (夕礼までに先生のチェックを受ける) ・きちんと整理・整頓ができていた→◎ ・注意を受けたが、きちんと直せた→○ ・チェックを受けていない。直せない→×							
●自分からあいさつができた ・大きな声で自分からあいさつができた→◎ ・大きな声であいさつができた→○ ・あいさつができなかった→×							
●注意を素直に受け入れることができた ・注意を受けなかった→◎ ・注意は受けたが、すぐに直すことができた→○ ・言い訳をしてしまった→×							
●今日1日で頑張ったことは何ですか。							
●①今日一番話をした人は誰ですか。	①名前	①名前	①名前	①名前	①名前	①名前	①名前
●②どんな話ことができましたか。	②内容	②内容	②内容	②内容	②内容	②内容	②内容
職員から一言							

(2) 日々のポイント（1日10ポイント）を加算していき、ステージ毎に設定された昇格条件をクリアすることでステージが上がる。

### ●（振り返りチェック表を用いたステージ制の卒園までの流れ）

入園オリエンテーション

振り返りチェック表の説明

↓

**ステージ1**（共通9項目の10個の達成内容の評価を開始）

個人目標の設定（時期を見て、達成具合により目標が変化していきます）

↓ 250ポイント

**ステージ2**（共通の10個の達成内容+個人目標を評価）

↓ 850ポイント

個別支援検討会にて学園内の承認

ケース検討会議にて承認

**ステージ3**（共通の10個の達成内容+個人目標を評価）

チャレンジ週の達成率により帰宅訓練（保護者との時間の共有）

4回以上成功

\*「自粛」になれば、回数がリセットされる

個別支援検討会にて学園内の承認

ケース検討会議にて承認

**ステージ4**（共通の10の達成内容+個人目標を評価）

チャレンジ週による帰宅訓練（友達と遊ぶことが許可される）

出身中学校に戻るための帰宅

4回以上成功

\*「自粛」になれば、回数がリセットされる

個別支援検討会にて学園内の承認

ケース検討会議にて承認

**ステージ5**（試験登校）

↓

ケース検討会議にて承認

措置停止

↓

**卒園**（措置解除）

内省

\*暴力・器物破損・  
いじめ・無断外出  
など





## ●ステージの説明・昇格条件

ステージ	目安ポイント	次のステージへの昇格条件	ステージの概要説明
1	0～249P	250ポイント以上獲得	生活習慣の立て直しをはかると共に、学園のルールや分校のルールを確認しながら生活をする。
2	250～849P	850ポイント以上獲得 + 支援会での承認	自分の課題を見つけ安定した生活を目指す。
3	850P～	帰宅訓練①を4回以上成功 + 支援会での承認	安定した生活の確立と維持をはかると共に、帰宅訓練①を通して家族との関係を再構築していく。
4	/	帰宅訓練②を4回以上成功 + 支援会での承認	試験登校や卒園に向けての準備をする期間。 帰宅訓練②を通して地域の場での力試しを行う。
5	/	ケース会 or 支援会にて承認 → 試験登校 or 卒園	自信を持って試験登校へチャレンジする。 ※中卒生はステージ⑤に昇格した時点で卒園決定。

※帰宅訓練①…帰宅訓練中は行動制限があり、どこに行くにも保護者と行動を共にすること。友達や知り合いと電話やSNS等で連絡を取ったり、会うことはできない。

※帰宅訓練②…帰宅訓練中の行動制限はなく、友達や知り合いとも会って、学園で身に付けた規範意識や強い心を試すチャレンジの場とする。

(3) 個別支援(内省・自粛)を行うにあたって、対象の児童とその寮の職員全員とが時間をかけてしっかりと話し合う場を持ち、個別支援に至った経緯や気持ち、また主訴との関連性を検証していきながら『内観療法』を用いた手法で支援にあたる。(説明④参照)

(4) 自己肯定感の低い児童達に『認め、褒められる場』を出来るだけ多く設定し、「自分でもやればできる！必要とされている！」という充実感や達成感を味わわせることで児童の自信や他者への思いやりを築かせ、育ませる。(朝JOG・ボランティア活動・職場体験・太鼓活動・寮活動等)

## 4. ステージ制のメリット

### 【見える化による支援】

(1) ステージやポイントといった具体的な支援基準や方法が児童にはわかりやすく、また、発達に課題のある児童にとってもそれらが目に視えることで理解もしやすくなじみやすい。

(2) 児童自身が日々の生活の中で『振り返りチェック表』を使って毎日、自己評価をしていくことで、自分にとっての課題や成長が見え、項目をクリアすることやステージが昇格することで達成感が持てる。

(3) 『振り返りチェック表』で日々の生活を確認することで、出来ていること(O) 出来ていないこと(X)が児童にとっても職員にとっても具体的に分かるので努力や支援もしやすい。O×をつけることが目的ではなく、あくまでも、お互いが今出来ていることとこれからのことを話し合う機会が多く持てるようになる。

(4) 児童自身が自分の現在置かれているステージを強く意識し、向上心を持つことで、新入児童が来た際にも流されたり、生活が崩れることがなくなり、寮の安定、学園の安定へと繋がる。

### 【連続性の支援】

(1) 交代制のシステムをとっている本施設においては特に有効で、全児童共通の項目で支援を行うことで、基本的な指導のポイントが明確となり、寮間の垣根を越えての支援がしやすくなり、点の支援から線の支援に繋がるようになる。

(2) ステージ毎に色別に用紙を分けている。何枚でステージを上げることが出来たか、最初はどの項目でのつまづきが多かったか。○が多かったのに、途中で×がつくようになったのは何故か…など、児童自身が自発的に過去と現在を比べながら自分の成長と課題を見つめ直すこと、学園での自分史の確認ができる。そのタイミングで職員と一緒に成長や課題も共有できる。

### 【関係作りの支援】

(1) 『振り返りチェック表』を用いて毎日の言動を確認することで、児童の課題や成長を職員が発見しやすく、それらに向けた支援や評価（特に褒めること）が出来るため、職員と児童のコミュニケーションツールとして活用することができる。

(2) 全職員が共通認識のもと児童の支援にあたるため、経験の浅い職員にとっては具体的な支援や指導の技術を学ぶツールとなったり、経験を積んだ職員にとっても具体的なアドバイスができる指標にもなるなど、職員間でのスキルアップツールとして活用できる。

### 【生活を基盤にした支援】

(1) 毎日の生活をベースとした支援システムであるので、特別な準備がいらず、食事のマナーから性に関することまで児童の主訴に直接触れることなく安全に生活の中で実施することが出来る。

(2) 個人の課題については、個々の『個人ファイル』を用いて確認していく。個人ファイルに設定する目標は、生活の中に見られる課題（主訴につながることも含めて）を児童と職員で話しあって設定し、スモールステップで徐々にレベルを上げていくようにしている。これらを有効に活用することで生活場面を通しての支援や評価をしていくことができる。

## 5. 今後のステージ制の課題

### 【支援の長期化～ステージ③④でのつまづき～】

計算上では、最短半年での卒園が可能であるようにステージを設定している。しかし、実際には1年未滿で卒園していく児童は1割に満たないのが現実である。何とか問題を起こさずに早期卒園を目指して生活しようとしても、本質的に変わる、あるいは変わろうと努力し、自立した社会生活を送る力がついていなければ、ステージ③・④で必ずつまづき、自分の課題と直面することになる。学園生活内では常に大人が側にいて、児童自身の力だけでなく、大人の力を借りながら一定落ち着いた生活を送ることが出来る。しかし、ステージ③となれば家族の力、ステージ④となれば、自分自身の力が大きく試される段階となる。そのステージ毎に求められている力をしっかりと身に付けることが出来ていなければ、ステージ③、④を行きつ戻りつし、支援が長期に渡る。児童の成長と共に、家族、地域が児童を支える体制を整えていかねばならない。

●発達障害等の特性から、物事に集中して取り組めない児童が、日課等で抜かりが生じることがある。ステージが上がる前に、こういった工夫や努力で抜かりが防げるのか答えが見つからないままポイントが溜まってしまった。情緒の不安定さや不注意で抜かること以外は非常によい生活を送っているためステージを上げると、うっかりミスで×がつき、帰宅訓練が実施できないことがあった。

●学園内での生活では安定・成長が見られ、ステージ③に上がった A 君。しかし、帰宅訓練が開始されると、“これぐらい、良いだろう” “ばれなければ良いだろう” という浅い考えのもとに、喫煙や門限破り等のルール違反を繰り返していた。ステージ④になってから、関係者からの目撃情報により、ルール違反が明らかとなり、自省に。帰宅訓練の成功数はリセットされ、またステージ③からやり直すこととなった。

### 【児童間での粗探し】

自分のステージは勿論のこと、他児のステージもはっきりと分かることはステージ制の良さである。しかし、ややもすれば、児童間での粗探しや足の引っ張り合いになる。ステージが低い児童が、高い児童の粗を見つけては職員に言いつけるケースや、逆にステージの高い児童が低い児童に対してできていないことを過剰に指摘するといった、お互いの支援を遅らせる行為もないとは言えない。

●ふざけ合いをしていて、相手が冗談で言った一言を「はい、不快～！」と言って職員に報告してくる B 君。職員から、本当に不快な思いをしたのなら、相手にどうしてほしいのかを伝えることが大切であると教えるがなかなか浸透しなかった。

●ステージ④の児童が、自身の失敗によりその週の帰宅訓練が不可になった際、「自分が帰宅訓練できなくなったから、今週末は、皆巻き添えにしてやる」と言い放ち、ステージ③の児童の言動を逐一チェックしては、職員に「あれは×ですよ」と言いあげてくることがあった。

### 【自宅への帰宅訓練や試験登校ができないケース】

ステージ③あるいは④に上がり、1週間の条件をクリアするも、ケース（その児童が保護者からさまざまな虐待を受けていたり、保護者が不在であったりする等）によっては自宅への帰宅訓練や試験登校が実施出来ずに児童のモチベーションが下がってしまう。そうなるも寮での生活や分校での学習に支障が出てくるケースがある。

●入園当初から自宅へ帰せないことが事前にわかっていたので、卒園後に入所させてもらえる児童養護施設を早い段階から児童相談所や関係機関に探してもらい、ステージ④になった時点で帰宅訓練先としてその施設への宿泊（一時保護委託）を数回実施した。この期間中に受入側の施設職員との関係づくりをしっかりと行ったことで措置変更後の施設での生活もスムーズに移行することができ、その後のアフターケアにおいても施設間で連携し協力することができた。

●施設不適應で児童養護施設より措置変更されてきたケース。学園での支援が進み、生活が改善され安定してきたので、元の児童養護施設への復帰を児童相談所を通して依頼しステージ④になった時点で帰宅訓練（一時保護委託）を実施した。関係がこじれていた児童養護施設の職員との修復を図りながら、帰宅訓練を繰り返し実施していき、受入側施設がOKと判断した時点で措置変更を行った。

措置変更後も施設間での情報共有を密にしていたことで中学校卒業、高校進学とスムーズにできた。

●両親が県外就労しており、長期休暇でしか帰郷できず、帰宅訓練の実施ができなかった。祖父が近県におり受け入れてくれることになった。ただ毎回の送迎は難しいとのことで、ステージ④になってから、ソーシャルスキルトレーニングとして高速バスの乗り方を教え、緊急時には連絡が取れるよう学園携帯電話を持たせて帰宅訓練を行うようにした。試験登校については両親の住所が定まらず困難であるが、児童に対して、両親は頑張っている様子をしており、定住が決まればすぐにでも卒園ができる状態を目指すよう目標を持たせた。

●母が収監されており、他親族とも音信不通で母との手紙以外でのかわりがなかった。入園して半年頃、祖母から学園に連絡が入り、急遽家庭訪問を実施。その後、母に面会し祖母宅を帰宅訓練先とする許可を得て、帰宅訓練を実施した。本児が帰宅訓練をすることで祖母以外の親族ともかわり、母が出所してからも協力してもらうことができた。親族の協力を得ることで母の生活拠点も定まり、試験登校先も決まり、関係機関にも協力してもらいながら中学校在学中の卒園につながった。

## 6. 今後の展望

### 【支援者（教職員）のスキルアップ】

ステージ制の導入により、学園生活（寮での生活・分校での学習）はおおむね落ち着いており、以前のように新入生が入園するなどささいな変化で学園全体が不安定になったり、モチベーションの下がっている児童に引っ張られて影響を受け続けるといったことはなくなった。それは児童一人ひとりが、今の自分の置かれているステージを意識し、一つでも上のステージを目指して、卒園をしたいという向上心が自ずと芽生えているからである。しかし、支援者が現状にあぐらをかき、児童と対峙することを避け、〇×を付けるだけの「チェックマン」となるとは、本来のあるべき支援がされず、以前の体制に逆戻りするのに時間はかからない。あくまでもステージ制は児童と支援者の関係作りを補助したり指導や支援のためのツールであることを忘れずに、日々、児童の言動に注目し「褒め方」「認め方」「叱り方」の技術を磨いていかなければならない。

### 【点数化できない部分への対応】

児童と日々生活していく中では、点数化できない素晴らしい行動や発言が多くある。その点数化できない言動に支援者がどれだけ気づき、拾い、児童に評価（褒める・認める）として返していくことができるのかが、児童の「自己肯定感」をより一層高めていく大きな鍵となる。点数という目に見える形では残らないからこそ、児童の『心』に残る言葉を伝えることが重要となる。ステージ制が関係づくりのツールであると述べたが、まさにここに大きな意義がある。そのためには、児童とのコミュニケーションをしっかりと取っていくことで、児童の内面をみることができ、心が言葉として伝わるのである。

### 【より個別性を高めていく指導】

ステージ制の導入により、全体の支援方法の統一化は実現され、軌道にものったと考えられる。そこで次に要求されるものとして、より「個別性を高めていく指導」がある。児童一人ひとりに則した指導

法を支援者が見つけ実践して行くことで、卒園後の児童の生活に大いに繋がっていく事が期待できる。そのためには、日頃から児童の特性をしっかりと理解した上での関係作りが必要不可欠となってくる。

●B君は不適切なかかわりに課題のある児童であった。入園当初は、職員や他児童とのコミュニケーションも上手く取れず、暴言や威嚇などの間違った行動で気をひいてはかかわりを求めてきた。それらの行動が出た時には、個別支援での振り返りを通して、B君の心の奥底にある寂しさや大人不信に至った経緯を受け止めるようにしていった。個別支援を通して、B君としっかり向き合ったことでB君との対話も増え、段々と正しいコミュニケーションが取れるようになってきた。そんなB君に「自分の想いを暴言や不適切な態度で現すのでは無く詩にしてみてもどうか？」と提案した。B君は「言動」を「詩」にすることで彼自身が自分の「言葉（発言）」や「態度（行動）」について日々考える様になった。

成果発表会（各児童の成果を関係機関の方や保護者に観てもらふ発表の場）ではB君の「詩」にメロディーを乗せ歌にして彼自身が歌った。照れることもなく、堂々と歌い上げたB君に多くの拍手が送られた。B君の個性や特技を引き出し、それらを最大限に発揮させられる場を提供することで大きな自信となり、自己肯定感を高めることにも繋がった。ステージ制の原点である「児童との対話」からB君の個性を引き出し、それを高めて支援に繋げていったケースである。

●発達障害や知的障害があり、話をして理解できない、相手の感情に気づけない児童がいた。振り返りを行う際に、絵と文字を活用して、問題行動の場面、またその前後の自分の気持ちや行動と一緒に整理した。それによって、自分の行動をどう変えていくのか考えるきっかけになった。

●C君は周りの児童より前に立ちたい気持ちが現れる児童であった。そのため、寮責やキャプテンなどリーダーとしての役割を任せた。自分の想いで動くだけでなく、人をまとめる、動かすのに必要な言葉がけや立ち振る舞いなど実践を通して身につけていった。C君の成長から役割や立場が人を変えていくことを学んだ。

### 【現在の達成内容の有効性と個人ファイルの活用】

学園生活を安心してお互いに気持ち良く生活していく為の必須項目を厳選し、且つ発達の特性のあるなしに関わらず、児童全員が自分自身の努力で〇を付けられるものとした。また、個々の課題を短期目標として作成している『個人ファイル』の目標設定や評価の方法等も含め、今後はこれらの項目の検証を行い、より具体的な記述、細分化した項目が必要になってくるのではないかと考える。

●D君の家庭には整理整頓の習慣がなく、服の畳み方や部屋の整理の仕方が身につけていなかった。そのため個人ファイルの目標を立てる際に、整理整頓については部屋全体の整理ではなくD君の能力や特性を考慮して、まずは服の整理整頓に絞り、取り組みを始めた。するとD君は「個人の目標として取り組むからにはきちんとやりたい」と意欲的に取り組めるようになり、指摘を受けることも少なくなってきた。今では「今日もきれいにできていますよ。前よりもきれいにできるようになったでしょう。」と自信をもって衣装ケースの中の確認を求めてくるようになり、〇がたくさんついた個人ファイルを嬉しそうに見せてくれるようになった。今後は整理整頓の範囲を広げながらレベルアップを図っていく予定である。

●E君は入園してから職員や他児との関わり（言葉遣い、態度等）などで注意を受けたり、注意を受けても同じことを繰り返すことが多かった。しかし、支援が進むにつれて朝JOGや寮での日課、分校での授業、放課後の部活動など様々な場面で頑張りが見えてきたことで職員から褒められることも多くなってきた。ある日、E君はこれまでのチェック表を見直しながら職員に「入園して最初は〇〇の項目でこんなに×があったのに今は少なくなってきた！」と自分の成長を感じていた。また、E君自身が以前より褒められたり、評価をされていることを実感し、そのことが自信につながった。

### 【アフターケアの充実】

卒園後のアフターケアも以前と比べると大きく変わってきた。以前は卒園後のアフターケアとしての詳細な取り決めはなく、各担当職員の想いだけでしかできていなかったのが現状で、日々の多忙な業務に追われ、満足なものとは言えなかった。しかし、ステージ制導入後は、次のような取り決めをし、チームとしてアフターケアを進めていくようになった。

- ・卒園後から1年間は、毎月1日に学園に電話連絡をし、近況報告をする。（1回/月）
- ・半年に1回は、学園職員と面会を行い、元気な姿を見せる。（2回/年）
- ・1年以上経過しても、本人や保護者がアフターケアの継続を希望する場合は、延長して行う。

この取り組みを行う以前の状況では、高校へ進学した者の9割が夏休み前に退学しており、事後報告として私たち職員の耳に入る状況であった。しかし、取り組み後は、事前に状況を把握することで本人との面接や高校との連携をはかることができるようになり、その結果、夏休み前の退学者を0にすることができた。

児童が在園中はチームとして寮職員全員が児童支援に携わるため、卒園後も卒園生とはスムーズに関わる関係ではある。しかし、実際には多くの職員が本来の業務に追われ、一部の職員がアフターケアを担っている現状である。今後は、児童だけでなく、その保護者や措置変更先の施設職員、高校の先生との関係作りも必要になってくる。

## ●説明④ 個別支援（内省・自肅）について

### 【内省に該当する違反項目】

- **暴力**（教職員や、児童への一方的な暴力行為）
- **無断外出**（園外（寮外）に無許可で出る行為）
- **いじめ**（個人及び集団で、肉体的または精神的苦痛を継続して与える行為）
- **喫煙**（自他の物に関わらず、煙草を吸う行為）
- **器物破損**（故意による、悪質な破壊行為）

### 【内省 or 自肅に該当する違反項目】

※話し合いの上で決定する。その間児童は、自室で待機させておく。

- ・暴言 ・威圧行為 ・盗み ・反抗 ・刺青 ・禁止物持ち込み
- ・自傷行為 ・身体接触 ・授業妨害 ・授業エスケープ ・眉毛剃り、抜き
- ・髪染め ・帰省、帰宅訓練中の違反行為 ・情報（外部、内部）の持ち込みと持ち出し

## 内省について

### 内省の方法 ※全寮統一

- 場所・・・基本的には児童の所属する寮の自室で行う。ただし、別寮で実施することで効果があがると判断した時には、話し合いを持って決める。
- 方法・・・各自の「振り返りノート」にまずは個別支援となった原因やその時の気持ちを時間をかけて記入させ、児童の所属する寮職員が児童と面接（振り返り）をする。その面接を受けて感じたことや、気づいたこと等を再度「振り返りノート」に記入する。次に面接を行う寮職員がその振り返りノートを見て、今までの内容を確認し、更に深めるための面接を行う。寮職員全員が複数回（2回以上）面接したのち、内観・内省できていると判断した場合は、園長、副園長、教頭、他寮チームの幹部面接を実施し規律委員会にて判断を行う。
- 期間・・・違反内容等で期間を決めるのではなく、児童の内観・内省の深まりを所属する寮職員全員と園長、副園長、教頭、他寮チームが話しあって決定する。  
※内省中の分校登校は停止とするが、学習権を保障するために長期休業中（春・夏・冬休み）に補ってん授業を実施し参加する。
- 復帰・・・寮内でのセレモニーを行って通常生活は復帰となるが、分校登校の際は、2日間の試験登校を経たのち、内省解除のセレモニーを行って完全復帰とする。

## 自粛について

自粛とは、軽度な違反行為があったときに、振り返りのための、面接の場を持つことである。

### 自粛の方法 ※全寮統一

- 場所・・・基本的には児童の所属する寮の自室で行う。
- 方法・・・各自の「振り返りノート」にまずは個別支援となった原因やその時の気持ちを時間をかけて記入させ、児童の所属する寮職員が児童と振り返りのための面接をする。その面接を受けて感じたことや、気づいたこと等を再度「振り返りノート」に記入する。次に面接を行う寮職員がその振り返りノートを見て、今までの内容を確認し、更に深めるための面接を行う。寮職員が複数人面接したのち、内観・内省できていると判断した場合は、所属寮チーフと寮職員の判断のもと解除できる。
- 期間・・・違反内容等で期間を決めるのではなく、児童の内観・内省の深まりを所属する寮職員全員が話し合って決定する。  
※自粛中は分校登校は停止とするが、学習権を保障するために長期休業中（春・夏・冬休み）に補てん授業を実施し参加する。
- 復帰・・・寮内でのセレモニーを行って完全復帰とする。

## 個別支援の判断

児童の違反行為に対する個別支援（内省・自粛）の判断は、寮職員だけではなく、分校教員も有する。主に分校活動時間中に起こった違反行為においては、分校教員の判断のもと、寮職員が児童を寮に戻し、面談（振り返り）を行う。その際、分校教員の協力も必要となってくる為、両者が協力して行う。

個別支援ではあるが、内省か自粛かで判断に迷った場合は、個人の判断で児童に申し渡すのではなく、児童を自室、もしくは別室に待機させておき、園長、副園長、教頭、チーフの判断を仰いで決定する。



## おわりに

「ここに来て何も変わらん！」「何が希望が丘な！ここは絶望が丘や！」

ステージ制導入前の荒廃していた時代の子どもたちがよく口にしていたセリフです。当時の学園はお世辞にも安定しているとは言えず、無断外泊、職員への暴力、いじめといった逸脱行動が常態化していました。子どもたちの心は荒み、誰一人として、ここで「自分は変わる！変わって地元に戻りたい！」とは思っていませんでした。それは、子どもたちだけでなく職員も同じで、何度も何度も指導をしても問題行動を繰り返す子どもたちを前に、具体的に何をすれば良いのか分からなくなり、立ち尽くしていました。そんな職員らを見て子どもたちは、暇つぶしに職員をからかい、キレル職員を見て楽しむようになりました。そのうち、職員が子どもの機嫌をとるようになっていき、自分の勤務時間内は何も問題が起こらないように……このようなことばかり考えて、子どもたちと正面から向き合うことを避けるようになっていったのです。その結果、多くの子どもたちが措置変更で学園を去って行きました。少年院から送られてきた子どもの手紙には「先生、いっぱい迷惑をかけてごめんなさい。いつも私の事を注意してくれていたのに、あの時は素直になれず……。私は先生も希望が丘も大好きでした。ここで頑張って早く退院して会いにいきます。」の謝罪と感謝の言葉が綴られていました。本当に申し訳ない思いと情けない思いで涙が止まりませんでした。もう二度とこんな苦しく悲しい思いを子どもにも職員にもさせてはならないと、毎日、毎日、皆で夜遅くまで必死で悩み考え抜いて作りあげたのが現在のステージ制のベースとなるものでした。

児童自立支援員（支援者）として子どもたちの前に立ち、本気で子どもたちと対峙することの大切さや『対話』を軸とした支援をおこなうことで、子どもらから多くの学びを得ながら共に成長していく現在のステージ制に辿りつきました。

『いつもあなたのことを見ているよ。いつも応援しているよ。本物になる！本気で変わる！そのためにここに来たんだよ。私たち職員も皆が本気でそこを目指しているよ。それが、日々のチェック項目、個人のファイル、振り返りノート、個別支援なんだよ。変われるまで一緒にがんばるからね。』

これがステージ制に込められた想いです。

大人（職員）の意識が大きく変わったからこそ、学園は生まれ変わりました。いまの学園であればあの時に措置変更せざるをえなかった子どもたちもきっと支援できたはずですが、私たちはそのことを絶対に忘れません。そしてこのステージ制をもっともっと発展させていきます。

最後になりましたが、花園大学社会福祉学部の橋本 和明教授には、2年間に渡り希望が丘学園での実践研究にご支援いただきました。この実践報告書発刊にあたり全職員の『ステージ制』への想いを更に強いものとしていただきました。心から感謝を申し上げますとともに、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

2015年度 高知県立希望が丘学園 実践報告書

希望が丘学園の支援体制

**愛して 信じて 許して**

～ステージ制導入で大きく変化した学園の支援と児童・職員の意識～

2016年3月 発行

**高知県立希望が丘学園**

〒783-0043 高知県南国市岡豊町小蓮 720

TEL 088-866-2069

FAX 088-866-0649

<h1>ステージ①</h1>		【記入方法と得点】							合計
		土	日	月	火	水	木	金	
<b>時間を守る</b> <small>【社会生活スキル】</small>	起床・消灯の時間やベル着の約束を守れた。								回
<b>整理整頓</b> <small>【社会生活スキル】</small>	自分の持ち物を決められた場所に整理整頓することができた。(夕礼前チェック)								回
<b>日課</b> <small>【日常生活スキル】</small>	朝・夕の当番、休日日課、掃除、洗濯干しなどの役割が抜けきりなくできた。								回
<b>健康管理 身だしなみ</b> <small>【日常生活スキル】</small>	清潔に保つことや正しく着用できた。(歯磨き・うがい・手洗い・入浴・爪切りなど)								回
<b>忘れ物</b> <small>【日常生活スキル】</small>	忘れ物がなく一日過ごせた。								回
<b>挨拶</b> <small>【対人関係スキル】</small>	挨拶ができた。								回
<b>言葉遣い 態度</b> <small>【対人関係スキル】</small>	正しい言葉遣い・マナーを覚える。(一度の注意で直すことができた)								回
<b>注意・指示</b> <small>【対人関係スキル】</small>	先生の指示や注意が聞いてただすことができた。(一度でなおすことができた)								回
<b>学習</b> <small>【学習習慣】</small>	30分は学習に取り組むことができた。								回
<b>体操/朝 JOG 部活動/太鼓</b> <small>【社会参加】</small>	基本的な活動・ルールを覚えた。								回
今日の獲得ポイント (合計P)		P	P	P	P	P	P	P	今週の合計P
先生からのコメント (確認)									総合計P

( )日~( )日

<b>ステージ④ 帰宅訓練②</b>										
【記入方法と得点】 できた………○(1ポイント) ( )日～( )日 できなかった……×(0ポイント)										
基準項目	達成回数	内 容	土	日	月	火	水	木	金	達成合計
時間を守る 【社会生活スキル】	7/7	起床・消灯の時間やベル着の約束を守れた。								回
整理整頓 【社会生活スキル】	7/7	いつも自分の持ち物を決められた場所に整理整頓することができた。								回
日課 【日常生活スキル】	7/7	朝・夕の当番、休日日課、掃除、洗濯干しなどの役割が抜かりなくできた。								回
健康管理 身だしなみ 【日常生活スキル】	7/7	清潔に保つことや正しく着用できた。(服装、髪型、爪で注意を受けない)								回
忘れ物 【日常生活スキル】	6/7	忘れ物がなく一日過ごせた。								回
挨拶 【対人生活スキル】	7/7	進んで挨拶ができた。								回
言葉遣い 態度 【対人関係スキル】	7/7	他児のお手本となる言葉遣い・マナーが使えた。(注意を受けない)								回
注意・指示 【対人関係スキル】	7/7	先生の指示を受け、注意をされることがなかった。								回
学習 【学習習慣】	7/7	1時間は学習に取り組むことができた。								回
体探/朝 JOG 部活動/太 鼓 【社会参加】	6/7	みんなのために取り組むことができた。(他者貢献)		/						回
今日の獲得ポイント (合計P)			P	P	P	P	P	P	P	今週の合計P
先生からのコメント (確認)										総合計P

|